

概要

1. 目的

都道府県ナースセンター登録者の属性および就業の希望条件等、ならびに登録している求人施設の属性および求人条件等の実態・動向と併せて、都道府県ナースセンターによる紹介や求職者の応募、就職等の状況を把握する。

2. 集計データ

集計データは、平成28年度にeナースセンターに登録された求職者、求人施設・求人等に関するデータである。

登録データを管理しているナースセンター・コンピュータ・システム（Nurse Center Computer System: NCCS）¹については、平成16、21、27年度にそれぞれシステムを変更したため、変更前後のデータ変動には注意が必要である。なお、平成28年度は前年度から同一システムで運用されており、システム変更の影響を除いた比較が可能である。

1) 求人倍率

■平成28年度の求人倍率は2.41倍である。求人数が159,999人で前年比1.2%減少の一方で、求職者数は66,485人と10.2%増加したため、前年より0.27ポイント低くなっている。（図1）

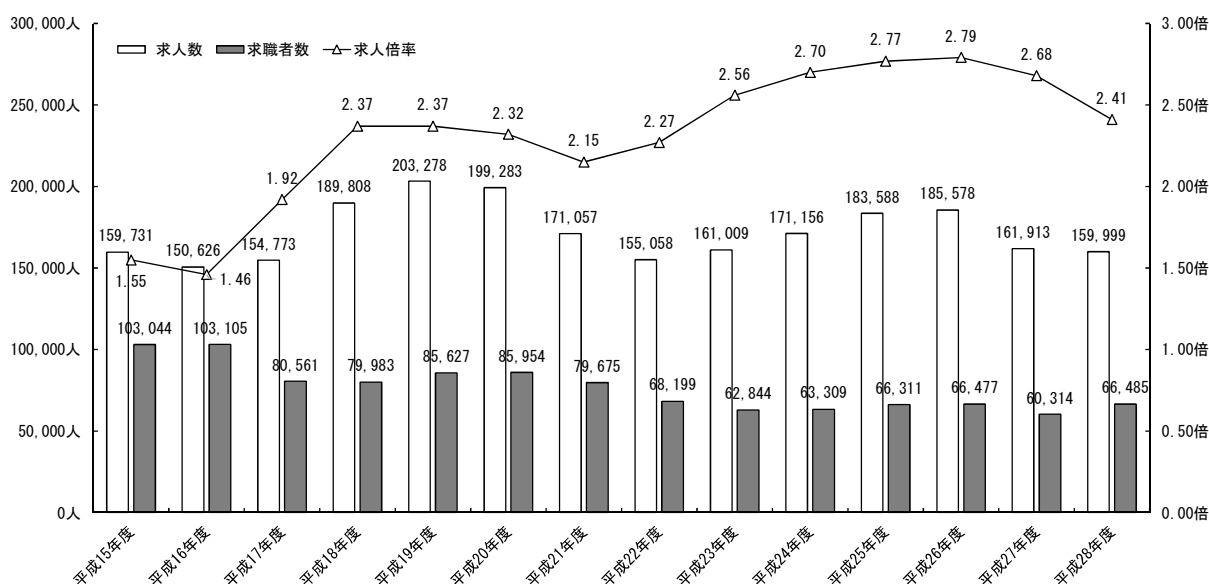


図1 求人数、求職者数、求人倍率の推移

■雇用形態別の求人倍率は「常勤」が2.71倍で前年比0.34ポイントの低下、同じく「非常勤」が2.21倍で0.25ポイントの低下となっている。（図2）求人倍率はともに低下したものの、「常勤」で、求職者が前年比10.9%増加に対して求人数が1.6%減少、「非常勤」で、求職者が前年比8.7%増加に対して求人数が2.5%減少したためである。

¹ ナースセンター・コンピュータ・システム（Nurse Center Computer System: NCCS）

各都道府県ナースセンターで行っている無料職業紹介システム（eナースセンター）、看護師等の届出サイト（とどけるん）、および都道府県ナースセンター業務支援システムの総称

概要

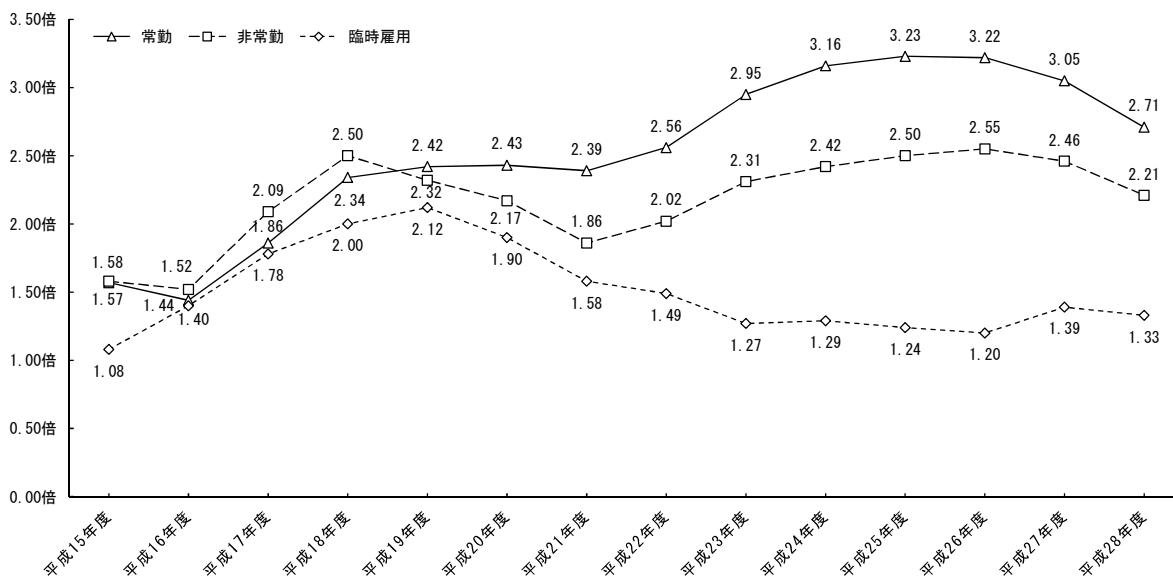


図2 雇用形態別の求人倍率の推移

■施設種類別の求人倍率は「訪問看護ステーション」3.69倍、「病院（20～199床）」2.51倍、「病院（200～499床）」2.22倍、「病院（500床以上）」2.18倍などが高くなっている。特に「訪問看護ステーション」は、求人数14,112人に対して求職者数が3,826人と少なく、最も求人倍率が高い施設種類となっている。それ以外では「介護老人福祉施設（特養）」「ケアハウス・グループホーム・有料老人ホーム」「介護老人保健施設」「デイサービス・デイケアセンター」「診療所（無床）」「その他社会福祉施設」の求人倍率が1.00倍を超えている。（図3）

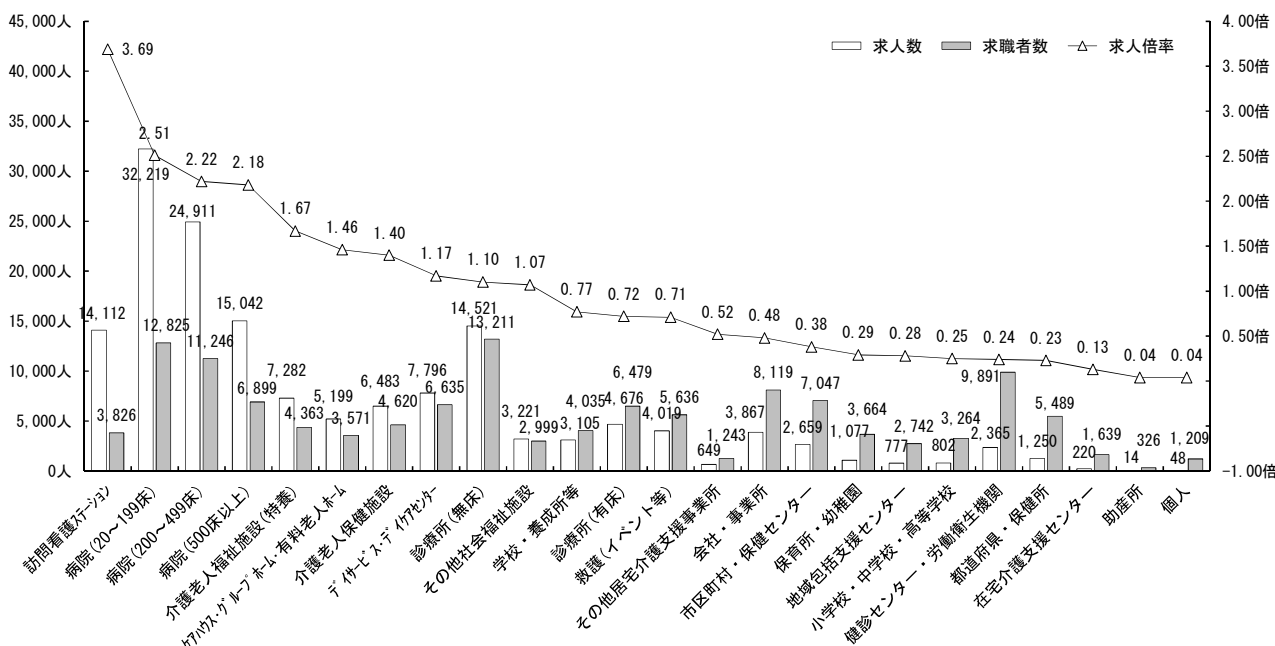


図3 施設種類別の求人倍率

2) 求人

(1) 求人施設数、求人数

■平成28年度に登録した求人施設数は32,813施設で、「診療所（無床）」が5,655施設（17.2%）で最も多く、次いで「病院（20～199床）」3,392施設（10.3%）、「訪問看護ステーション」3,264施設（9.9%）、「デイサービス・デイケアセンター」2,862施設（8.7%）などが多い。

（図4-1）なお、全国の病院および訪問看護ステーションの総数に占めるナースセンターに求人登録している割合をみると、規模にかかわらずすべての「病院」を合わせた病院数は8,446病院のうち65.8%、訪問看護ステーションは8,719事業所のうち37.4%が求人していることになる。（総数は平成28年「病院報告」「介護サービス施設・事業所調査」）

■求人数は159,999人で「病院（20～199床）」32,219人（20.1%）、「病院（200～499床）」24,911人（15.6%）、「病院（500床以上）」15,042人（9.4%）となっており、これらを合わせた病院からの求人が45.1%を占めている。また、求人施設数、求人数とも前年との顕著な変化はみられなかったが、「会社・事業所」の求人が減少している。（図4-2）

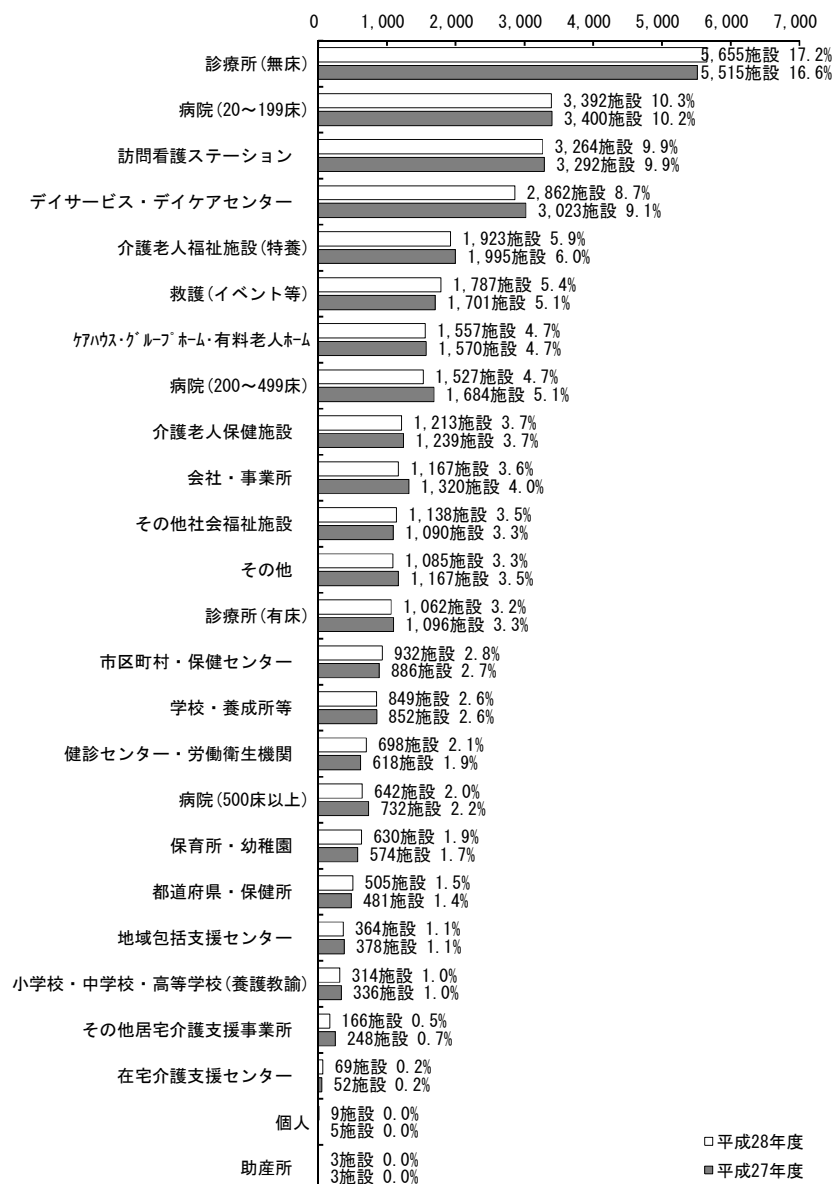


図4-1 求人施設数（平成27年度・平成28年度）

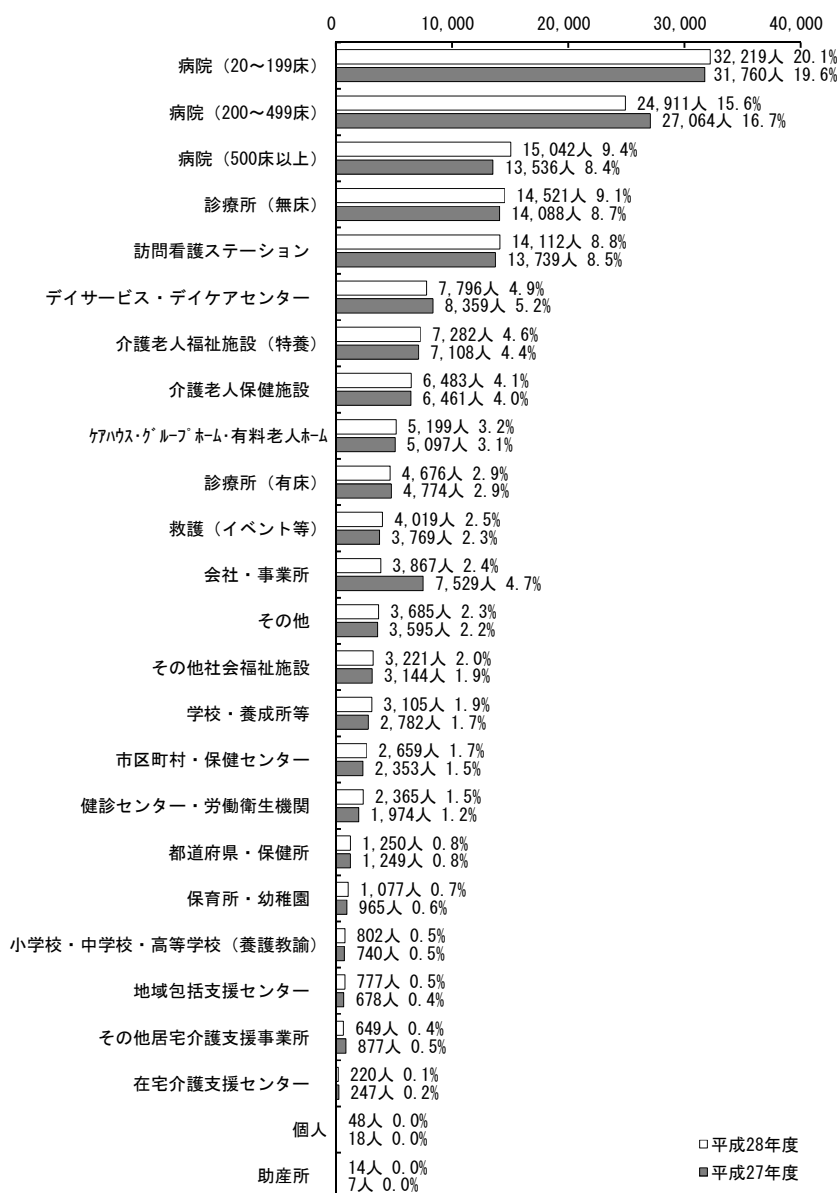


図4-2 求人数 (平成27年度・平成28年度)

3) 求職

(1) 求職者の属性

■求職者66,485人について、年齢構成をみると「40~44歳」が17.2%で最も高く、その前後の「45~49歳」「35~39歳」がそれぞれ16.2%、14.7%が続いており、この年代で出産や育児で離職した者や、現在の職場での就業継続が難しくなった者の求職登録が多いと推測される。他方、60歳以上の求職者についてみると「60~64歳」5.5%、「65~69歳」2.9%、「70歳以上」0.6%で合わせて9.0%と全体の1割近くに上っている (図5)

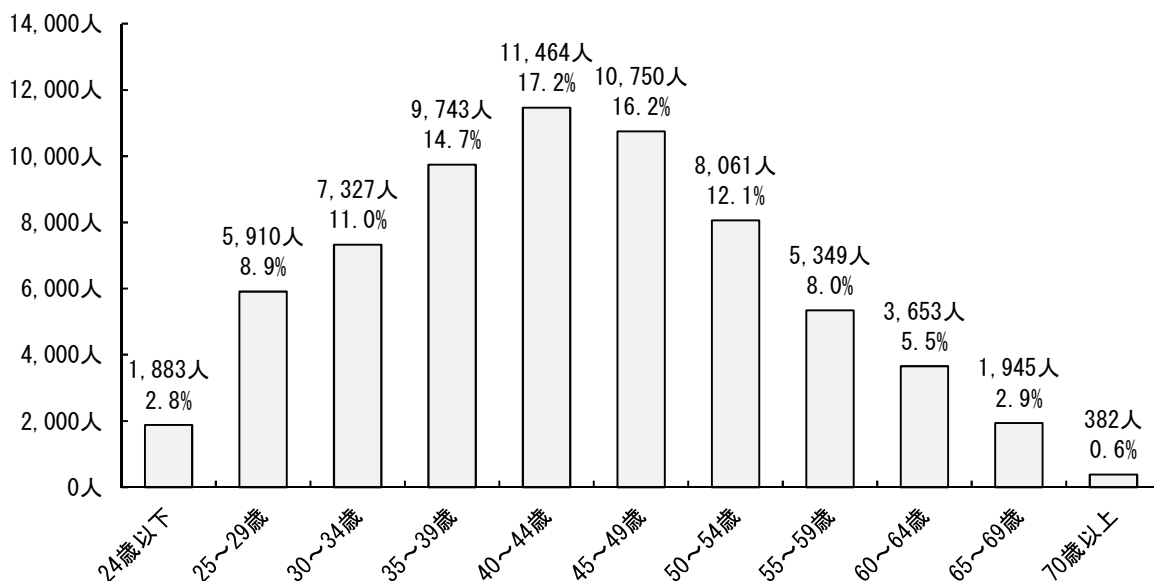


図5 求職者数（年齢階級別）

■求職者66,485人の就業状況を見ると、就業中の求職者は14,537人で21.9%であるのに対して、未就業または看護職以外で就業中の求職者は30,992人で46.6%と倍以上となっている。なお、未就業の求職者の割合を年齢別にみると「60歳以上」が54.4%で最も高く、次いで「35～39歳」をピークにその前後も高くなっている。求人施設としては、セカンドキャリア世代（プラチナナース）、育児・子育て世代の復職を可能とする多様な働き方の仕組みづくりが求められる。（図6）

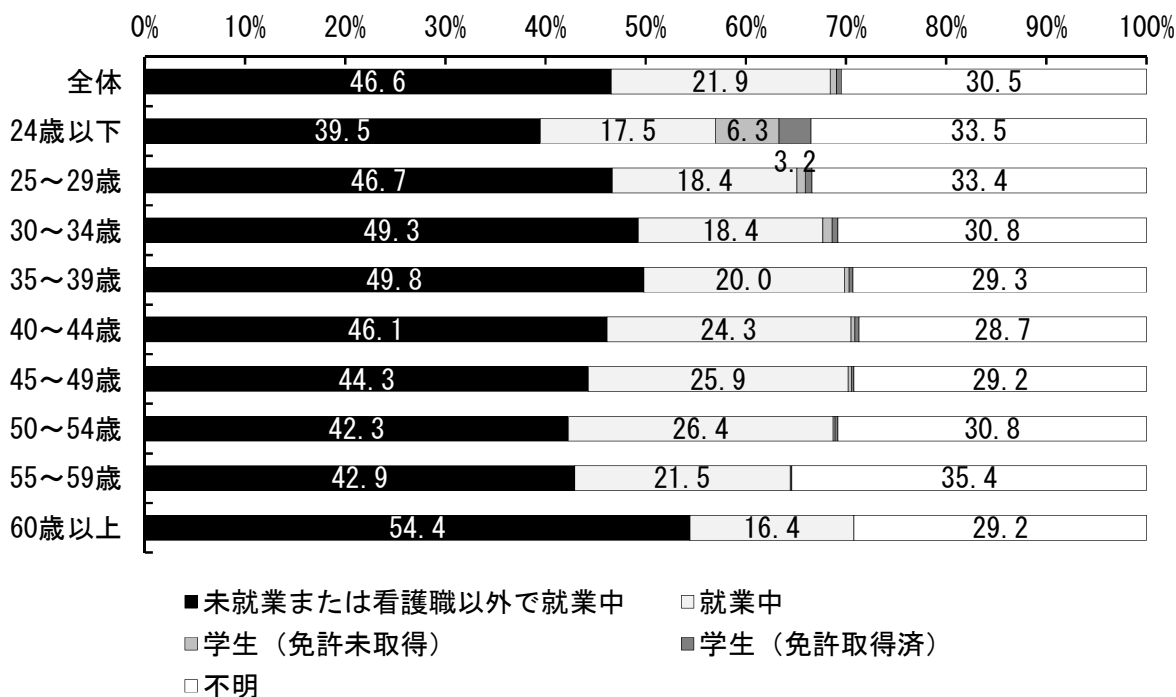


図6 求職者数の就業形態（年齢階級別）

(2) 求職者の希望する雇用形態

■求職者の希望する雇用形態は「常勤」57.3%、「非常勤」32.9%、「臨時雇用」9.7%となっており、「常勤」を希望する割合は「24歳以下」をピークとして「35～39歳」まで減少している。また、定年退職後のセカンドキャリアとなる「60～64歳」の求職者の希望する雇用形態をみると、「常勤」33.4%、「非常勤」45.9%、「臨時雇用」20.6%で、「常勤」と「非常勤」を合わせておよそ8割に上っている。65歳以上では臨時雇用の割合が高くなることから、勤務意欲の高い64歳までの求職者を活用する仕組みの整備が喫緊の課題と言える。(図7)

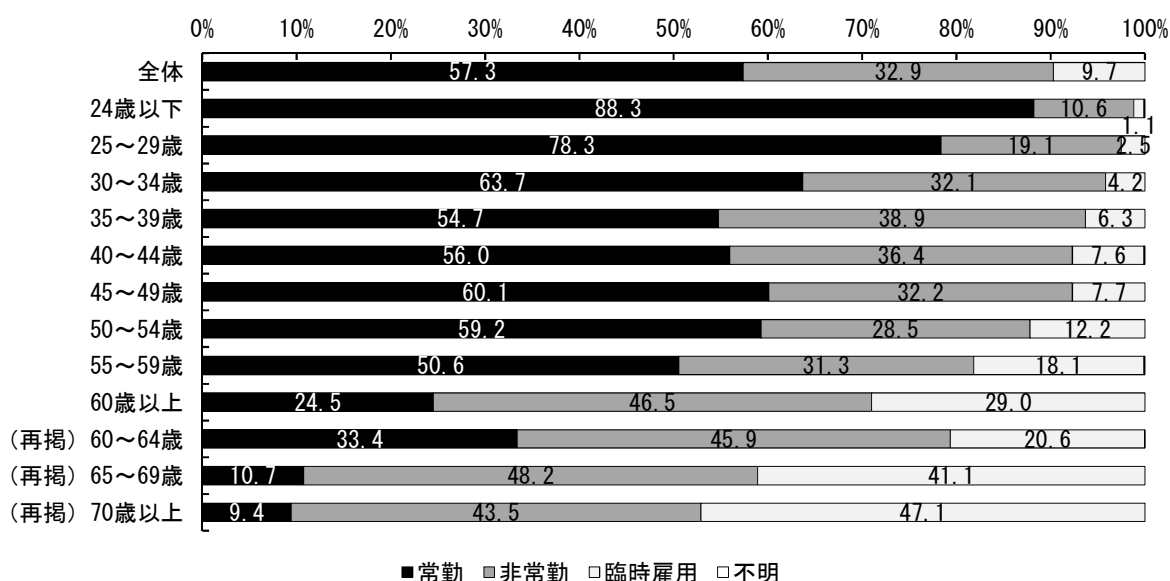


図7 希望する雇用形態

(3) 求職者の退職理由および退職したい理由

■現在、就業していない求職者が以前の職場を退職した理由（以下、退職理由）を年代別にみると、いずれの年代でも「結婚」「転居」が高い。その他は20代以下では「妊娠・出産」「自分の健康（主に精神的理由）」など、30～40代では「妊娠・出産」「子育て」、50代では「親族の健康・介護」「自分の健康（主に身体的利用）」が高いことが特徴としてあり、年代による支援の違いがあることがみて取れる。(図8-1-1～4)

■現在、就業している求職者が今の職場を退職したいと考えている理由（以下、退職したい理由）を年代別にみると、いずれの年代でも「看護職の他の職場への興味」「勤務時間が長い・超過勤務が多い」が高い。その他は20代以下では「夜勤の負担が大きい」「結婚」「転居」「自分の適性・能力への不安」、30代では「転居」「子育て」、40代では「結婚」、30～50代では「昇進・昇給・給与に不満」、50代では「親族の健康・介護」が高いことが特徴である。(図8-2-1～4) 看護職の定着を図るため、さまざまな視点からの職場環境の改善の必要性が示唆される。

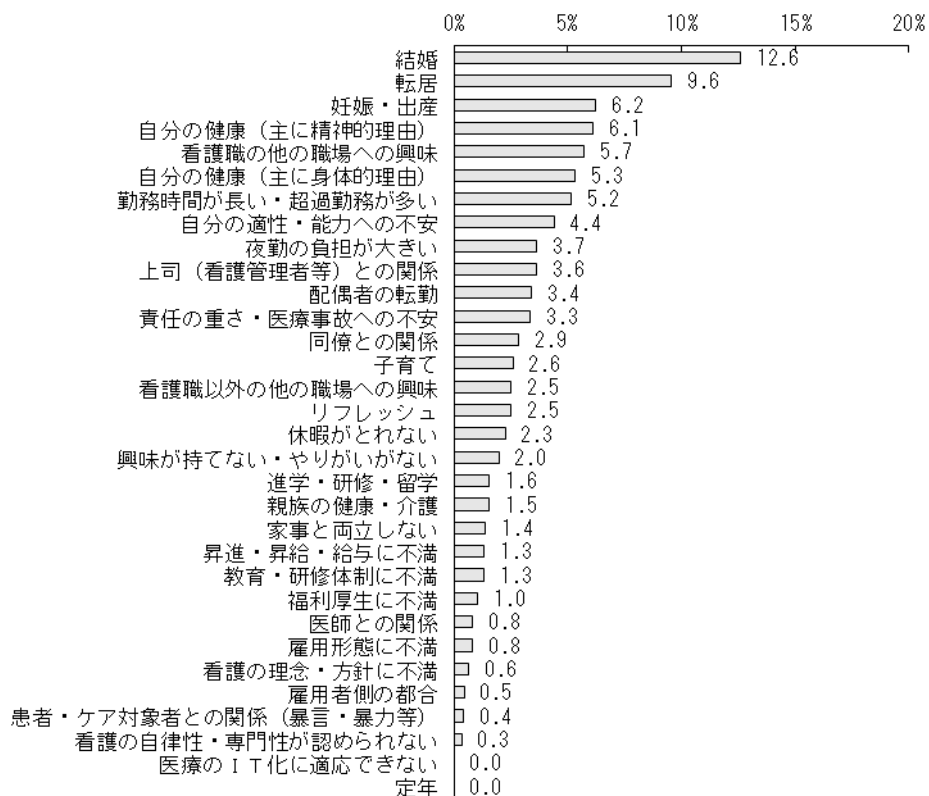


図8-1-1 退職理由（20代以下）

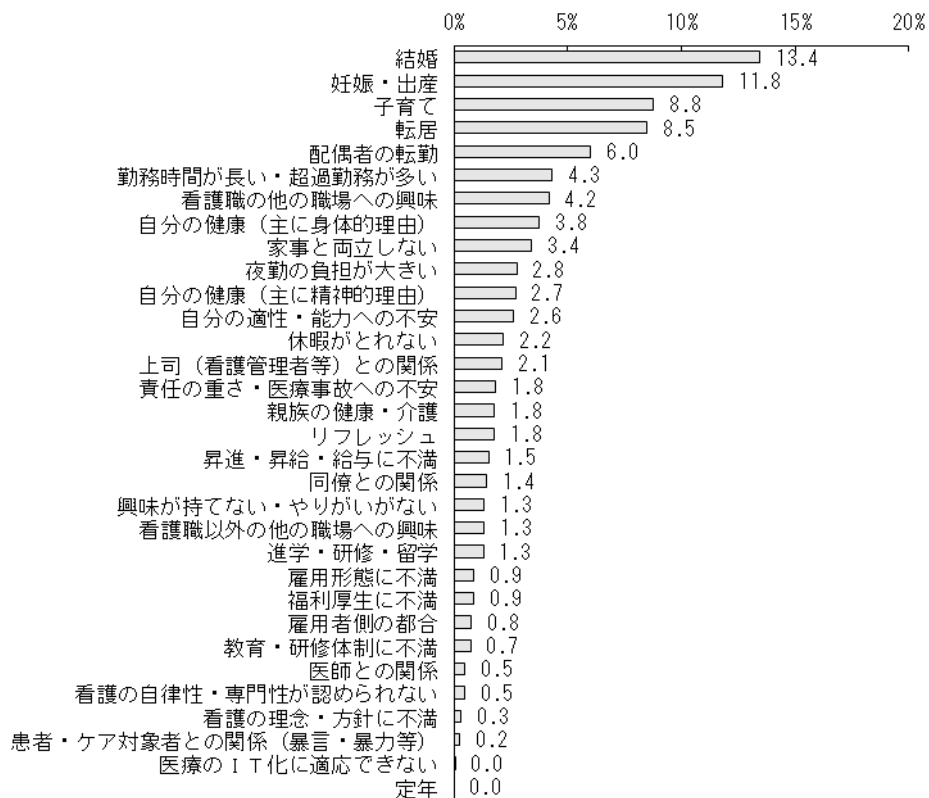


図8-1-2 退職理由（30代）

概要

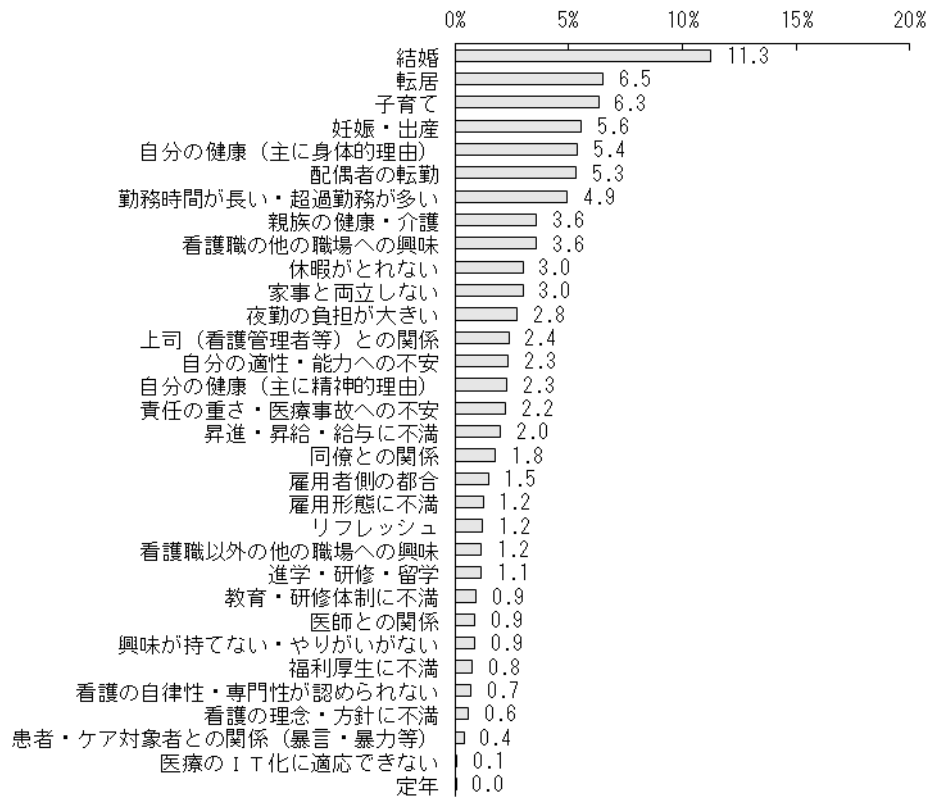


図8-1-3 退職理由（40代）

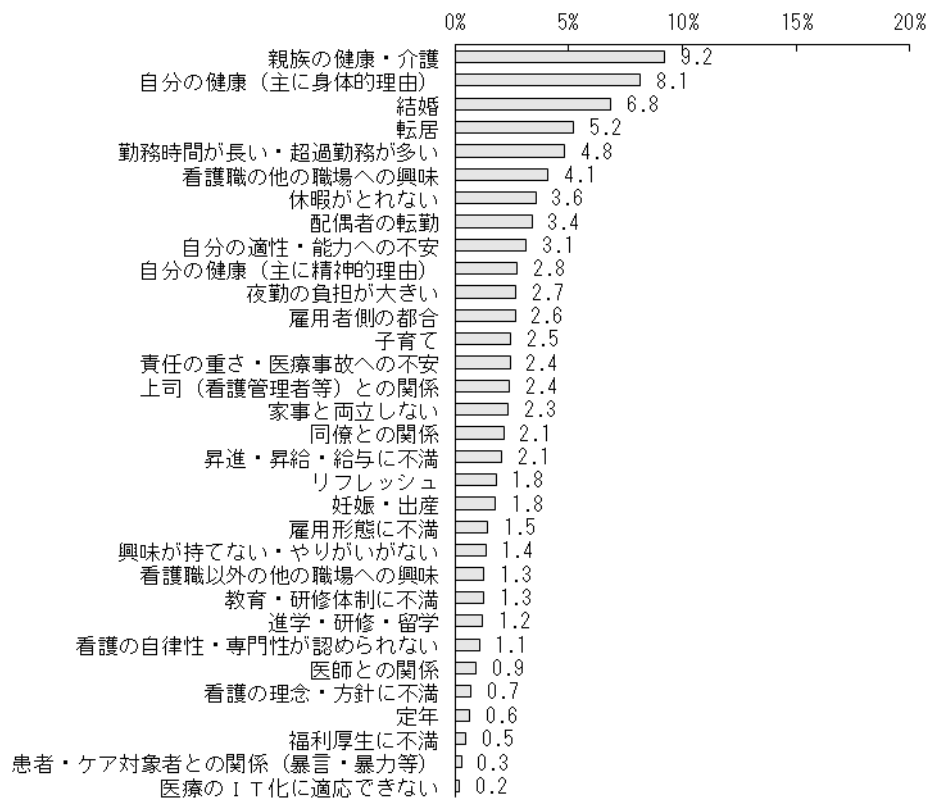


図8-1-4 退職理由（50代）

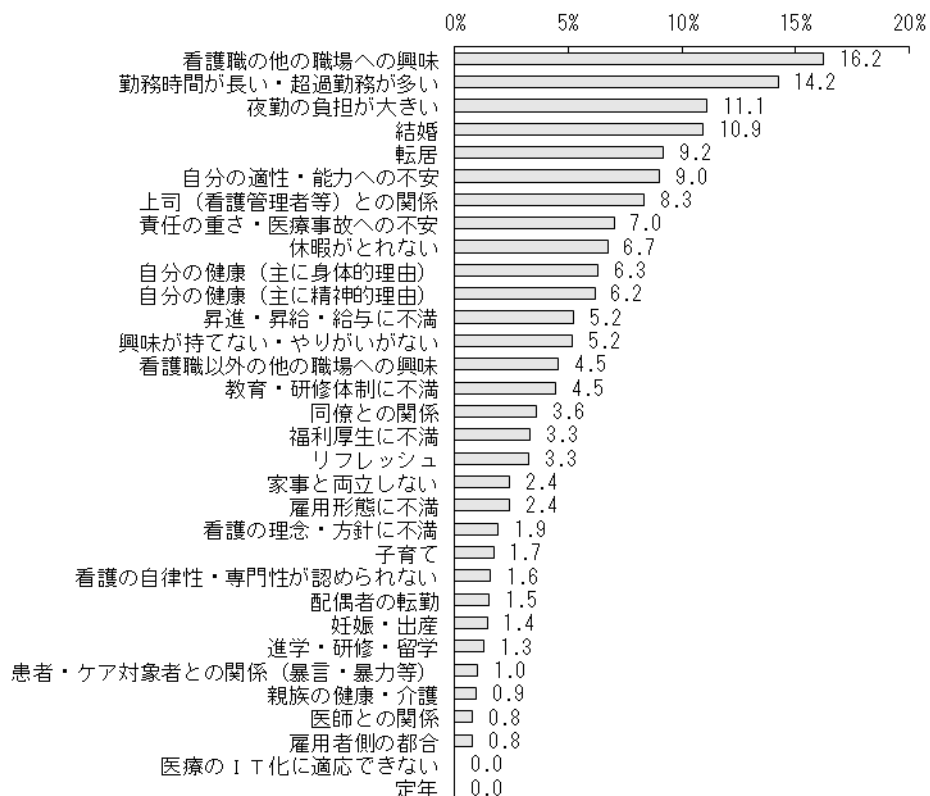


図8-2-1 退職したい理由（20代以下）

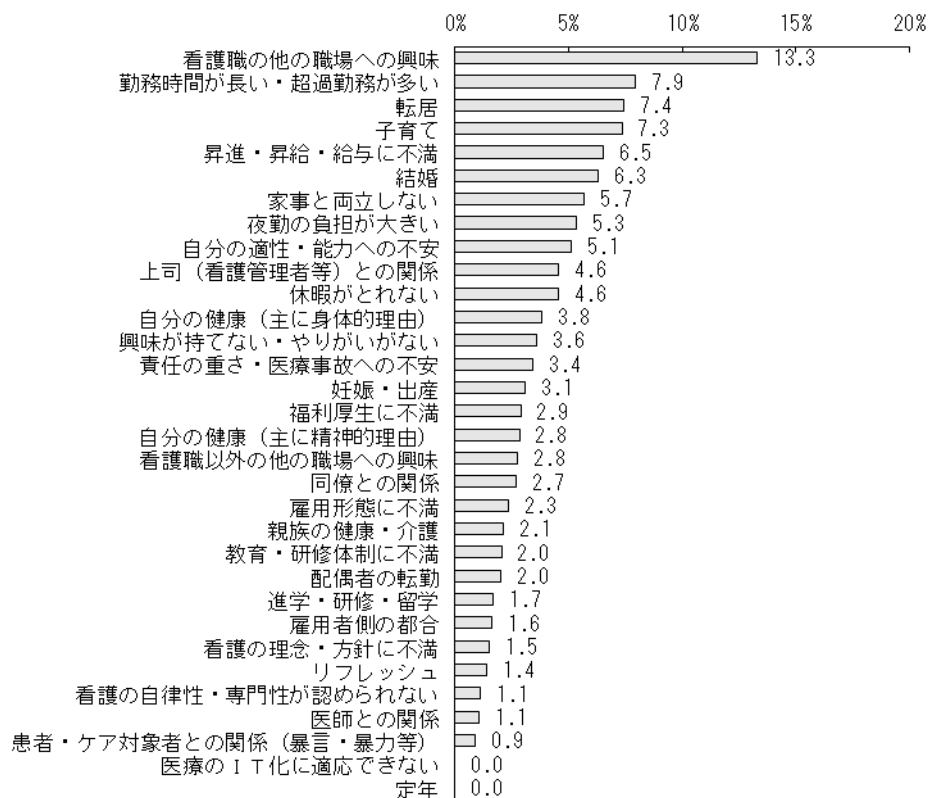


図8-2-2 退職したい理由（30代）

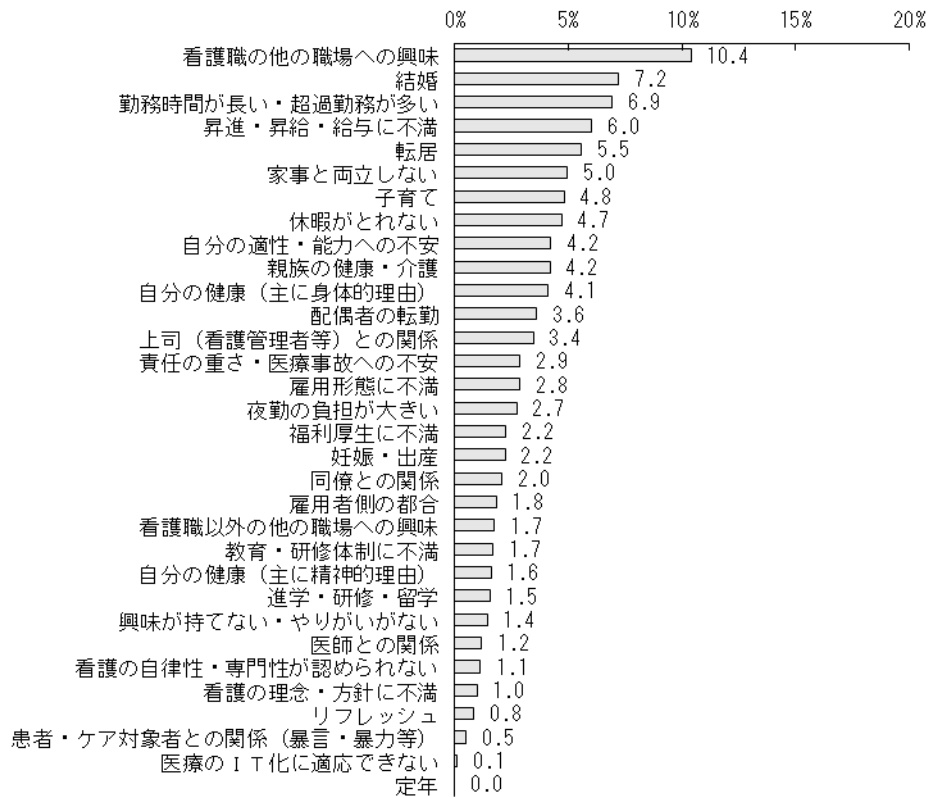


図8-2-3 退職したい理由（40代）

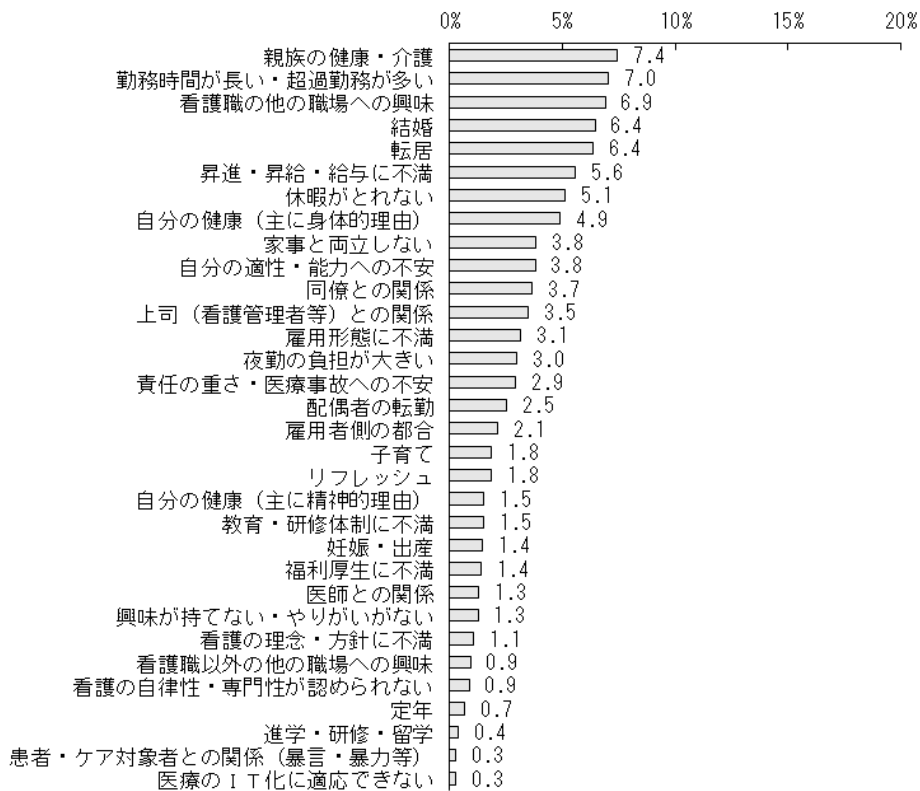


図8-2-4 退職したい理由（50代）

(4) 就職の際に重視する条件

■求職者が就職の際に重視する条件は「勤務時間」26.3%、「給与」18.9%、「通勤時間」17.4%、「看護内容」16.4%、「休暇」13.1%の順となっている。希望する施設は複数回答であるため、それぞれ「病院」「介護老人福祉施設（特養）・介護老人保健施設」（以下介護施設等）「訪問看護ステーション」のみを希望する求職者に限定してみると、「病院」を希望している求職者は「給与」を最も重視し、次いで「勤務時間」「看護内容」が高い。「介護施設等」を希望している求職者は「通勤時間」「勤務時間」と「給与」が高く、時間的余裕を重視する傾向がみられる。「訪問看護ステーション」を希望している求職者は「勤務時間」「給与」に加えて「看護内容」を重視する割合が他と比べて相対的に高く、また「キャリアアップ支援」を重視する傾向も特徴的である。（図9）

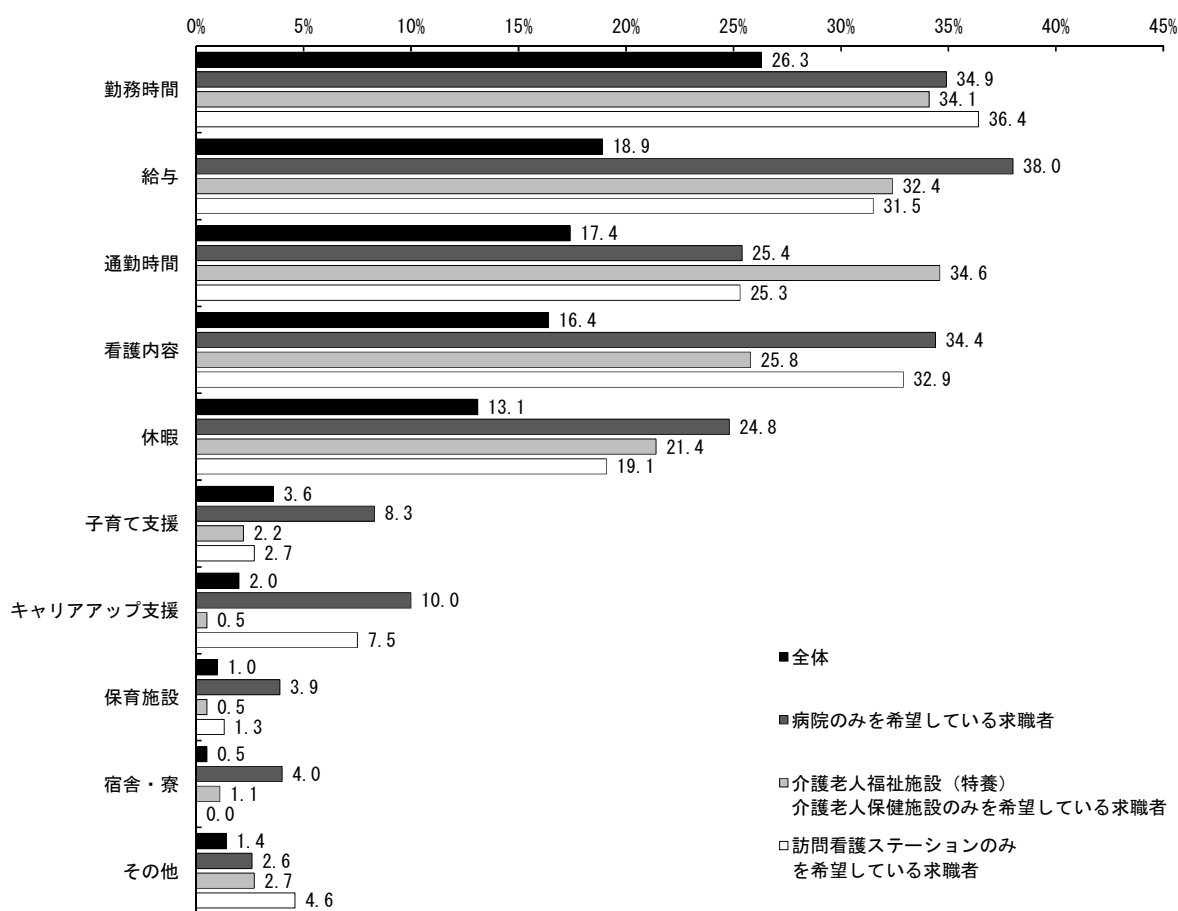


図9 求職者が就職の際に重視する条件（求職者の希望している施設種類別）

(5) 応募、就職の状況

■求職者66,485人について、その31.6%、20,995人が応募し、就職に至った者は12,085人、18.2%である。これを求人施設からみると、159,999人の求人数に対して13.1%に応募があり、7.6%が就職したことになる。他方、応募者20,995人を基準とすると、その57.6%が就職したことになり、ナースセンターによる就業支援などで6割弱が就職まで至っている。今後はより多くを就職にまで結び付けることが求められる。(図10)

なお、図は求職者数、求人数、応募者数、就職(採用)者数をそれらの人数に比例させた面積の正方形で示している。

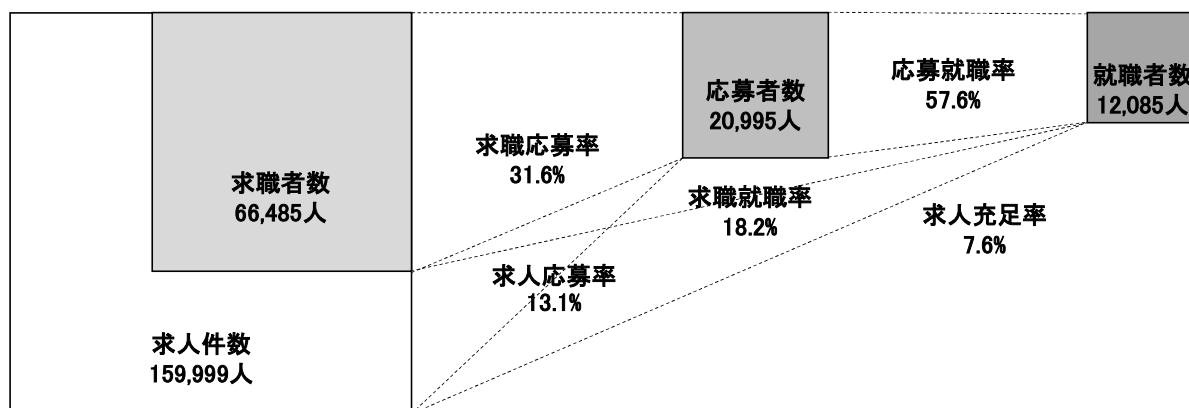


図10 応募、就職の状況

(6) 求職者の希望する施設種類

■平成28年度に登録した求職者66,485人の希望する施設種類（複数回答）は、「診療所（無床）」13,211人（19.9%）、「病院（20～199床）」12,825人（19.3%）、「病院（200～499床）」11,246人（16.9%）などが多くなっている。（図11）

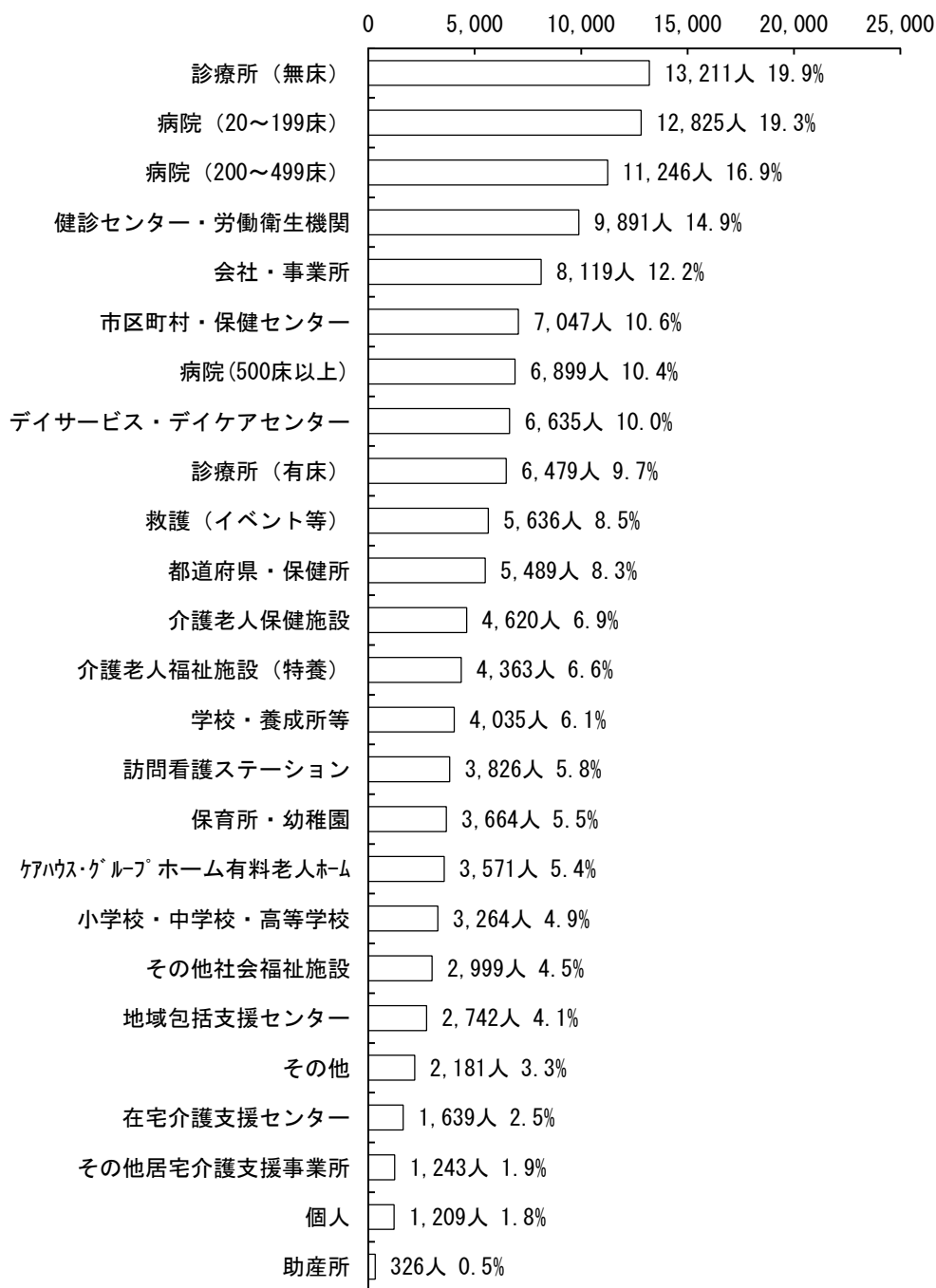


図11 求職者の希望する施設種類